南山城

京都府南部地域は、南山城として知られています。それほど広大な地域ではありませんが、緑豊かで緩やかな丘陵地の中央を静かに木津川が流れ、絵のように美しい地域です。京都の古都地域で、現在の京田辺市、宇治田原町、木津川市、精華町、笠置町、和束町、そして南山城村などがあります。多くの古い街道や交易の道としてこの地を通り抜けています。

現在、南山城は、静寂さと豊かな茶畑から収穫された高品質のお茶で知られています。川沿いには、規模は小さいながら、千年数百年もの歴史のある有名な寺院が多くあります。広大な自然の中に本堂のみの寺院もありますが、多くの寺院は、素晴らしい美しさと歴史のある国宝や重要文化財を所蔵しています。特に南山城のこのような予想外の変化に富んだ光景を見るためにも、訪れる価値があります。

歴史

南山城は、景勝の地であり、日本の歴史上の重要で影響力のある様々な人物が長く暮らし、また滞在してきました。例えば、元明天皇（660-721）は、甕原に離宮を建設しました。元明天皇より皇位を継いだ弟の聖武天皇(701-756)は、甕原離宮へと移りました。この地域は、恭仁京と改名され、短い期間ではありましたが、日本の都となりました。

水害防止のために作られたダムの稼働以前は、木津川は流れが強く早く、川に沿って交易が栄えていました。南山城から奈良の様々な（今では有名な）寺院のために必要な物資が集められ、川を下り泉河の港で陸揚げされて、奈良県へと運ばれていく行程が、日本最古の編纂詩集である万葉集に、書かれています。この木津川の役目によって、「木」（木材・物資）、「津」（港）、「川」から、「木津川」の名が付けられたと考えられています。このように木津川は、南山城の政治、経済、文化そして宗教の歴史を通して、重要な役割を果たしてきました。現在木津川は、狭く水位も浅くなっていますが、かつては洪水を起こし、川岸の建物を流してしまうことがありました。

南山城の魅力

絶景や大衆的な魅力で、強く惹きつけられることはないかもしれませんが、南山城には、目立たないながら確かな魅力があります。この地域の多くの寺院は、飛鳥時代と奈良時代に創建されました。言い換えれば、時代の変化を通して、現在の姿になった日本を見てきたといえます。最近の考古学的発掘調査により、南山城の仏教との初期の結びつきが明らかになってきています。

昔、南山城は、街道の宿場町として栄え、旅人は寺院に留まり祈りを捧げていました。しかし現在、南山城の寺院へのアクセスは、簡単ではありません。それでも、寺院は極めて価値のある仏像（訪問者は見学を申し込むことができます）が安置されており、同時に奈良時代の仏教の遺産を守る中心地であることを考慮し、苦勞しても行く価値があります。